跳びはねてもいい音楽会

琉球フィルハーモニックオーケストラによる
「美ら(ちゅ)サウンズコンサート2021」

記録＆つくり方

跳びはねてもいい音楽会

琉球フィルハーモニックオーケストラによる「美らサウンズコンサート2021」

記録＆つくり方

ゆいまーるミュージックプロジェクトとは

オーケストラの演奏会を楽しめるのは「健常者」だけ？ そのことに疑問を感じたことはないでしょうか。

例えば、感動や喜びを大きな声を出したり、飛び跳ねることで表現する障害者が、

オーケストラのコンサートを生で鑑賞する機会はとても少なく、

その家族もまたいっしょに出かけるのをためらいがちになります。

「ゆいまーるミュージックプロジェクト」は、障害者や、そのご家族が気兼ねなく

コンサートを楽しめる環境をつくるためのチームを結成し、

そのノウハウを全国に広げることを目的としています。

琉球フィルハーモニック

琉球フィルハーモニックは、音楽による地域社会への貢献を目的に、2009年よりプロのオーケストラとして演奏活動をスタート。2012年には一般社団法人琉球フィルハーモニックとして新たな一歩を踏み出しました。
オーケストラという演奏形態は、ヨーロッパの音楽文化が世界へ拡がり、多くの国で組織され、その地域の文化、教育、国際交流などに貢献しています。オーケストラの水準は、その国や地域の文化レベルを知るためのバロメーターになることも。沖縄の優れた文化に世界の多くの方が触れてもらうためにも、優れたオーケストラの存在は必要不可欠と考えます。子どもたちの育成のために2013年から「那覇ジュニアオーケストラ」を設立。さらに音楽による子どもの居場所づくりとして2016年から「ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウェスト」の活動を行っています。
これからも「音楽と共にまちと響き合う」を大切に活動してまいります。

美らサウンズコンサートは、今回で3回目の開催になります。

琉球フィルハーモニック事務局　tel. 080-6497-8049　https://ryukyuphil.org/

家族で一緒に演奏会へ。

それぞれのペースで。それぞれのリズムや楽しみ方で。

移動もしやすい座席間隔と通路。

思わず手でリズムをとる人や踊りだす人も。

曲にあわせて、踊ったり、跳びはねたりしてもいいクラシックの音楽会。

笑いと親しみやすさと本格的な音の調べ。

シンガーソングライターの謝花勇武さん。

ソプラノ歌手の読谷山[illegible]花による独唱。

オーケストラの演奏を[illegible]めて聴く人も。

大好評のちびっこ指揮体験。

カラダを動かす時間も。

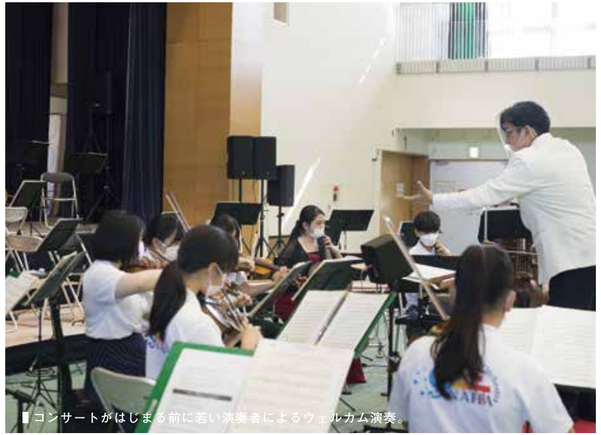
[illegible]での指揮体験。

▌コンサートがはじまる前に若い演奏者によるウェルカム演奏。

▌コンサートがはじまる前に若い演奏者によるウェルカム演奏。

▌遠隔での指揮体験との共演。リハ（06ページ右下）を終えたところ。

▌遠隔での指揮体験のクライマックスとなるシーン。



▌コンサートがはじまる前に若い演奏者によるウェルカム演奏。

▌オーケストラによる迫力ある演奏。

▌画面のむこうにいる観客にむけての演奏。

▌遠隔での指揮体験をおえて、画面のむこうにいる体験者との会話。

美らサウンズコンサート２０２１　曲目と、その流れのねらい

1 ウェルカム演奏

ウェルカム演奏などで、「らく」な気持ちで会場に入ることができるよう、さまざまな工夫をしています。

那覇ジュニアオーケストラ　ストリングス

2 オーケストラ演奏

リラックスできる曲目から始めて、しだいに盛り上がる曲に。

歌劇「カヴァレリア　ルスティカーナ」より間奏曲

ワルツ「南国のバラ」

バレエ組曲「白鳥の湖」より　情景・4 羽の白鳥の踊り・ハンガリーの踊り

ゲーム「クレヨンしんちゃん『オラと博士の夏休み』～おわらない７日間の旅～」より
「まわる僕らと銀河系」オーケストラ版初演（楽曲提供：坂本　英城）

3 音楽パフォーマンス

休憩を入れると障害のある方たちの集中力が切れてしまいます。
15 分間のパフォーマンスでリラックスして、空気がいい状態で後半へ。

高良　幸人（音楽療法士／児童デイセンターこどもの城ミュー所長）

赤羽　一則（琉球フィルハーモニックオーケストラ客演打楽器奏者）

4 障害のある歌い手 × オーケストラの共演

障害のある歌い手たちとオーケストラメンバーの交流によって、活動の場が広ります。

謝花　勇武（シンガーソングライター）

読谷山　こずえ（ソプラノ歌手）

5 指揮者体験

２人の子どもたちと、クローン病患者で沖縄県難病支援センター「アンビシャス」副理事長の照喜名　通さんが体験しました。

6 オーケストラ演奏

障害のある方たちが興奮した状態で会場を出ないよう、ラストはダイナミックな曲ではなく静かな曲で。

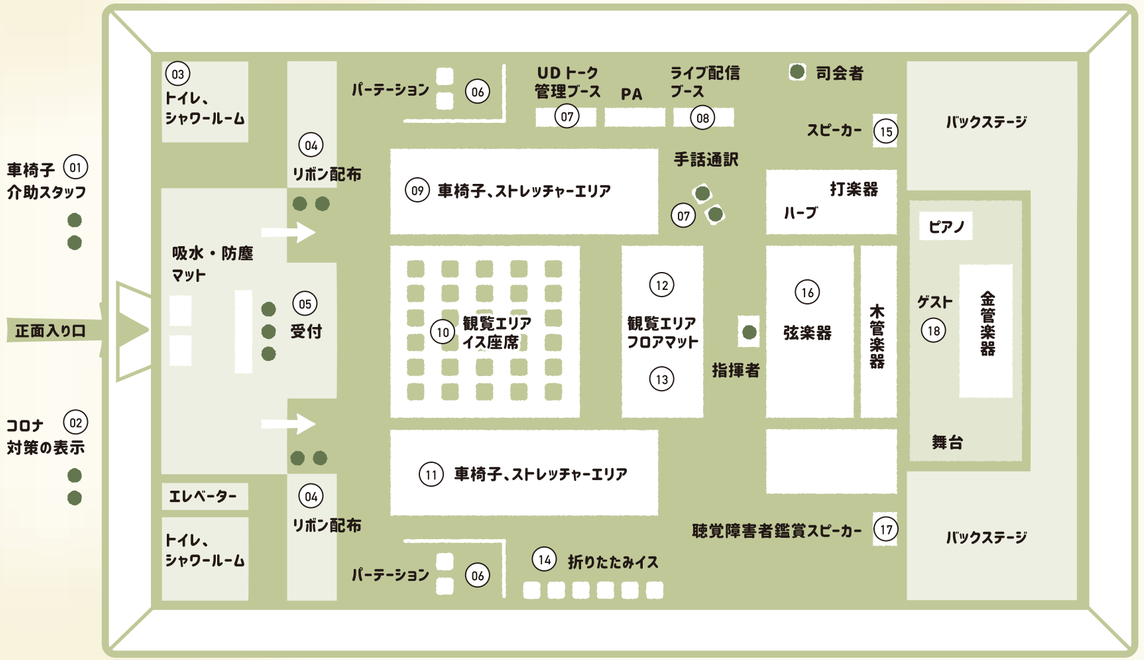
栄光の架橋

映画「ジュラシックパーク」より　メインテーマ

アンコール「ザ　ファイナル　タイムトラベラー」

- 対象 …… すべての障害・難病のある方、ご家族・介助の方、一般
- 入場料 …… 無料
- 指揮 …… 松元　宏康
- ナビゲーター …… 當銘　直美
- 主催 …… 文化庁
- 協力 …… 沖縄ケーブルネットワーク株式会社
- 後援 …… 沖縄県、うるま市、沖縄県社会福祉協議会、与那原町社会福祉協議会、琉球新報社、沖縄タイムス社、NHK 沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、ラジオ沖縄、（株）エフエム沖縄
- 共催 …… 与那原町、与那原町教育委員会、うるま市教育委員会
- 制作 …… 一般社団法人　琉球フィルハーモニック

コンサートの会場配置

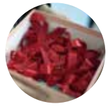


会場となったのは、与那原町観光交流施設。体育館としても利用できる広い空間です。

01
車が寄せられるような入り口付近には、車椅子で来場された方の介助ができるスタッフを配置。

02
新型コロナウィルス感染症対策

03
シャワールームをおむつ交換場所にセッティング。

04 
受付でマスコミなどの取材が入っていることを説明。写真やビデオに映りたくない人に「撮影NGリボン」を配布。

05
受付での密状態をつくらない。またスムーズな入場のために、QRコードなどを活用。

06
人混みでは落ち着かない人のために、周りを気にせず鑑賞できるパーテーションの設置。

07
UD トークや手話通訳を活用。
呼吸器などのための電源の確保も用意。

08
ライブ配信ブース（協力：沖縄ケーブルネットワーク株式会社）。

09
ストレッチャーや 車椅子での移動をしやすいように、広くとった空間。

10
座席のあいだをとり、介助や移動が行いやすいような配置。

11
フロア保護シートを敷き、土足での入場。

12
前方の鑑賞シートは靴を脱いで、リラックスしながら聴くことができる。

13
来場者にとって居心地のよい空間をつくる。

14
使い勝手のよい折りたたみの椅子を用意。また、広い場所を用意することで来場者の自由度が高まる。

15
コンサートホールの音に近づけるための音響設備。

16
オーケストラを見やすくするため、舞台とフロアを併用。

17
聴覚障害者が鑑賞できるよう専用スピーカーを設置。

18
ゲストはステージのセンターでオーケストラと共演。

雑音の雑っていうのが
彼らの特性なんです。

音楽療法士
児童デイセンターこどもの城ミュー所長　高良 幸人

本土でコンサートマネジメントの仕事をしていた高良幸人さんが、後に音楽療法士になるきっかけは、コンサートホールに来た筋ジストロフィー（筋肉が壊れやすい難病）の人が、会場に入れない場面に遭遇したことだった。
仕事の傍ら、音大出身の演奏家や作曲家の仲間と結成したアンサンブルの、初めての演奏は障害者施設のクリスマス会。ところが…

「まったく盛り上がらなかったんですよね。どうしてかなぁと考えると、障害者には音楽が好きな人もいれば、体調が悪い人もいる。緊張して、痰が溜まったり、呼吸がしにくい人も。それで切り替えて、ジャズ調に、ざっくばらんに演奏してみたんです。歩きまわって。楽譜も無視して。そうすると障害がある人も介助者も身体が動いてきたんですよ。手拍子も出てきて…。筋ジストロフィーの方が興奮して、立ち上がったんです。すごいことですよね。拍手喝采がなりやまらなかったんです。私たちへの拍手なのか分からないですけど(笑)」

音楽の「楽」という部分を高良さんは「らく」と読む。音楽を通して聞き手が楽になって気持ちを表現できるようになることが音楽療法だとするならば、私たちが音楽っていいな、音楽があってよかったなと感じるように、障害のある人もその家族も、生の音を聞きたい。楽しみたい。

沖縄に音楽療法という言葉がなかった30年前からその道を暗中模索してきた高良さんにとって、美らサウンズコンサートは彼自身の表現でもあるだろう。

「“跳びはねてもいい”と謳われているコンサートですけど、自閉症の人が飛び跳ねるのは楽しいからだけじゃなくて、自分を整えるため。跳びはねて落ち着いたところで彼らは楽になるんです。演奏家はどうしてもそれを雑音と捉えることもありますよね。
でも、雑音の雑というのは、彼らが雑というのではなく、気もちを整え気もちを織りなすオブリガード（助奏）の様なもので、彼らはそうすることによって、音は何でも音楽になるよ！と伝えてくれているのです。
そのような表現をしているんだよと演奏家に伝えておくことで、彼らは演奏家と一緒にコラボレートすることができるのです。そうすると演奏家も楽に演奏ができます。彼らの社会に私たちが入り込めば逆に楽なんです」

字幕があれば音楽を楽しめる人がいる。

NPO 法人美ら島きこえ支援協会 会員　渡久地 準

「聞こえる」私たちがコンサート中「見えていない」ものがあった。それは28人の人が司会進行や、曲名、指揮者と参加者とのやりとりなどをスマートフォン画面でリアルタイムに確認できる「UD トーク」で、音楽を「見て」楽しんでいたこと。

UD トークとはコミュニケーションの UD（ユニバーサルデザイン）をサポートするアプリで、視覚聴覚障害間や多言語コミュニケーションなどに用いられている。

「UD トークは聞こえない方の情報インフラのひとつとして知られてきていますし、こういった機会に知る方も多いです。僕らは音声認識の可能性をかなり前から探っていて、やっと実用的なものが誰にでも容易に使える形で出てきたので、沖縄でいろいろ使ってみているという感じです」と話すのは、美ら島きこえ支援協会会員の渡久地準さんだ。

固有名詞や曲名、珍しい名前などをあらかじめ単語登録しておき、音響スタッフと連携した音を持ち込んだミキサーに入れて、そこから音声を分岐して、文字化する。中途失聴者である渡久地さんは「どうしても視覚優位で生きているので、目で見えないこと＝情報として伝わりにくいという感覚があります。基本、歌詞は見ながら聞きます。そうじゃないと記憶に残らないんですよ」。字幕があれば音楽を楽しめる人がいる。

17 歳で両耳が聞こえなくなった渡久地さん。25 歳の時に人工内耳の装用手術を受けるまでの 8 年間は、補聴器も効かず、気持ちが沈んでいたという。

もともと「感情の質感みたいなものが生きてくる」音楽が好きだった。

「聞こえない人に向けてこうやって配慮してくれるのは非常に嬉しいです。県外でもやっていると思うんですけど、大きい企業がスポンサーに付いている。こんな風に完全に手づくりでやっているコンサートは沖縄だけだと思います。土地柄なんでしょうね」。

とはいえ渡久地さんが沖縄のホールなどのリストをつくって、補聴の機器や字幕を出すシステムが入っているかを調査すると、わずか 5%。システムがあっても使われていない施設があると知った時は「流石に、落ち込みました」。

「ヒアリングループというんですが、補聴器を付けている方が舞台から距離があっても、耳元で適音くらいに聞こえるシステムがあるんです。それって演劇や音楽の楽しい体験。健聴の方も使うとわかると思いますよ」

開催までのタイムスケジュール

流れとチェックポイント

5カ月前

アクセスのしやすさを考えて、
２つの会場で公演をするために。

- □ プロジェクトチームの立ち上げと第１回会議
- □ 演奏者、司会者へのオファー
- □ 対象とする障害種に合わせた会場の選定
  （駐車場の確保、車イスのまま入場できるか）
- □ 来場者の障害種の決定

3～4カ月前

どんな曲目を届けるか。
どんな風に広めるか。

- □ 出演者、ゲスト、司会者、開催プログラムの決定
- □ ボランティアスタッフ募集
- □ 地域の消防署に概要を伝え、当日の救急要請に備える
- □ 医療関係者（介護士、看護師）などに協力依頼
- □ ポスター、フライヤーの作成
- □ プロジェクトチームでの情報交換に SNS グループなどのツールを活用

3カ月前

コンサートの告知と、
実施シュミレーション。

- □ コンサートの告知、プレスリリース
- □ 予約開始
- □ 会場の下見、実施シュミレーション
- □ 会場の機材の搬入搬出や、入場者の出入り口を確認
- □ 備品、スタッフの動線を確認
- □ 会場トイレなどバリアフリー状況を確認し、対応策を講じる

2カ月前

事前予約時に、
障害種が把握できるようにする。

- □ 予約状況の確認
- □ 来場者の障害種の把握（特記事項などの確認も）
- □ ボランティアスタッフ、会場スタッフの確定
- □ 広報状況の確認（フライヤー配布先の在庫確認も）

1カ月前

車イスやストレッチャー、ベビーカーなどの数や
予約状況をもとに動線を確認。

- □ ボランティアリーダーとの打ち合わせ
- □ アンケートの質問内容を決定
- □ 予約状況をもとに動線を確認

前日

オーケストラ演奏者に、
障害の特性についてレクチャー。

- □ ゾーニングをもとに会場設営
- □ 施設にない設備をレンタルしている場合は、その対応
- □ 演奏リハーサルで、音響や舞台設営を確認
- □ オーケストラ演奏者に、障害などの特性による反応の違いについてレクチャー

当日

来場した人がはじめに会うのはスタッフ。
笑顔で迎える。

- □ ボランティアリーダーはボランティアと協力しながら対応する
- □ 受付で予約を確認し、障害の種別に応じた対応をする

コンサート後

振り返って、
次につなげる。

- □ 広報、会場、演奏者、プログラム内容、ボランティア、報道など、コンサートの振り返り
- □ アンケート回答の分析

今日一日、よろしくお願いします。

役割を分担します。

共同作業も。3年目になるとボランティアさんの中には指示がなくとも動けることが多くなる。

普段演奏をする人も運営を知る良い機会。

コンサートのウラ側をちらっと紹介

地域の方の応援や支援も、あたたかいコンサートには欠かせません。

いろんな来場方法があります。

入場をスムーズにする工夫も。

駐車案内も丁寧に。

ジュニアメンバーによるウェルカム演奏。

会場設営や配信の準備はそれぞれプロの手で。

複数の映像カメラで配信も。

リハーサルにむけて調子上々！

配信にむけ着々と。

司会進行も、お互い合わせは念入りに。

写真に写りたくない方にはリボンを。

ようこそいらしてくださいました！

会場以外での音の聴こえ方もチェック。

チェック、チェック！

消毒など、目には見えない部分もしっかりと。

アンケートも次回にむけた大切な資料に。

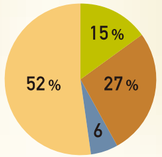
演奏者も、趣旨を理解して挑みます。

真剣さのなかに、楽しさも忘れずに。

コンサートの評価調査

ケイスリー株式会社
落合千華氏

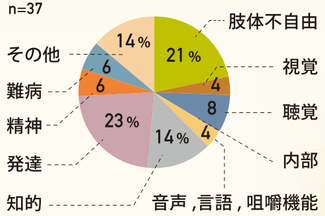
障害の有無、関係性
n=98



- 15% 障害・難病のある方
- 27% ご家族 ご家族の方
- 6% 介助者・ヘルパーの方
- 52% その他

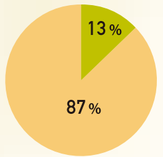
昨年度と比較すると、その他の割合が20%近く増えました。

障害の種別
n=37



昨年度と比較すると、
音声言語咀嚼機能の割合が減りました。

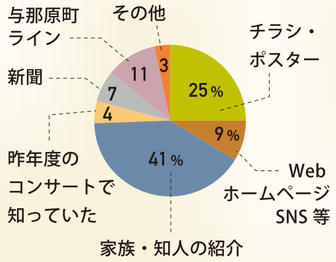
車いす利用の有無
n=122



- 13% ある
- 87% ない

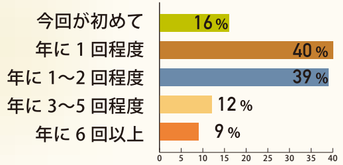
昨年度までの傾向と変わりません。

コンサートの認知経路
n=149



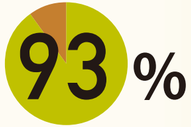
昨年度と比較すると、新聞や与那原町公式ラインの部分が増えました。

日ごろの 芸術文化鑑賞、参加機会の頻度
n=135



昨年度と比較すると
1~2 回程度までの人の割合が 10% ほど増えました。

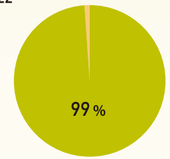
コンサートを安心して楽しめたか
n=129



- 84% そう思う
- 9% 少しそう思う
- 4% どちらともいえない
- 3% あまりそう思わない
- 0% そう思わない

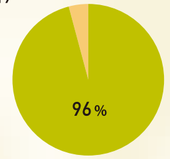
9 割以上が、本コンサートが新しい芸術文化体験となり、安心して楽しめたと回答しました。

バリアフリー対応
n=122



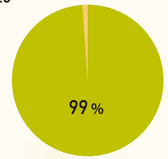
- 99% 問題なかった
- 1% 気になる点があった

障害への配慮
n=119



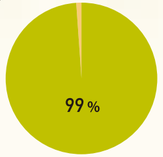
- 96% 問題なかった
- 4% 気になる点があった

スタッフの対応
n=126



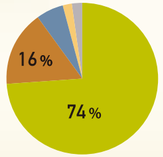
- 99% 問題なかった
- 1% 気になる点があった

コロナへの対応
n=127



- 99% 問題なかった
- 1% 気になる点があった

今後、芸術文化への参加・鑑賞機会を増やしたいですか。
n=133



- 74% そう思う
- 16% 少しそう思う
- 6% どちらともいえない
- 2% あまりそう思わない
- 2% そう思わない

主なプロジェクトメンバー

仲根 建作
NPO 法人沖縄県脊髄損傷者協会 理事長

照屋 尚子
沖縄県教育委員

島村 聡
沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授

宮城 潤
那覇市若狭公民館 館長

謝花 勇武
シンガーソングライター

読谷山 こずえ
ソプラノ歌手

知念 淳二
与那原町福祉課職員／社会福祉士

与那覇 雅美
与那原町観光交流施設 館長

上間 優
うるま市教育委員会

渡久地 準
NPO 法人美ら島きこえ支援協会 会員

高良 幸人
音楽療法士／児童デイセンターこどもの城ミュー 所長

樋口 貞幸
ファシリテーター／琉球フィルハーモニック 理事

上原 正弘
一般社団法人琉球フィルハーモニック 代表理事

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
令和 3 年度障害者等による文化芸術活動推進事業（共生社会の推進を含む）
ゆいまーるミュージックプロジェクト
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

発行
一般社団法人
琉球フィルハーモニック
901-0156 沖縄県那覇市田原1-12-6
tel 080-6497-8049
https://ryukyuphil.org

イラスト： 山里 美紀子
写真： 田村 ハーコ
制作：アイデアにんべん